東京都指定有形文化財（建造物）

旧本田家住宅だより

Vol.4　2022.6

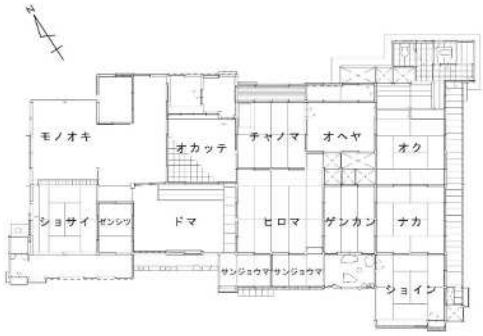
◎ 本田家の壁紙下地

古民家の解体調査は新しい時代の改造から着手し、順に古い時代の改造の解体へと進めていくことが一般的です。旧本田家住宅の場合も、まずは近年の改造である壁や天井のベニヤ板から剥がしていきました。オク・ナカ・ショインの壁はベニヤ板の下に壁紙が貼られ、その下地には大正期の新聞紙や書の下書きが使われていました。中には漢詩らしきものや１５代谷庵の妹さんが書かれたと思われる墨書もみられ、近隣から「書家の家」と認識されている、本田家らしい発見となりました。

ナカ小壁の壁紙下地
書の下書きのような墨書を貼り合わせてある。

オク床の間の壁紙下地
大正６年１月 20 日の日付がある新聞。

また、ゲンカン天井の上には「隠し部屋」とも呼ばれる中２階があり、その壁にも壁紙が貼られ、下地には「配剤録」(処方箋)の類とみられる墨書がみつかりました。９代当主随庵や１１代当主覚庵の筆跡ではないかと考えており、引き続き調査を行います。



旧本田家住宅平面図（解体前）

ゲンカン中２階の壁紙下地
土壁→壁下地→壁紙の順に貼られていた。

左記右側（ゲンカン押入天井裏）の壁紙
黒く煤けているが美しい文様が確認できる。

❋ 本田家旧蔵資料 ❋　その２　本田家鞍（拝領葵紋付馬具）

本田家４代当主定之は徳川家３代将軍家光・４代将軍家綱に仕えて幕府の厩舎に勤め、その功労により幕府から拝領したと伝わる鞍が今も残されています。鞍には徳川家の家紋である葵紋があり、根来塗りで鞍骨には延宝９(1681）年の焼き印があります。

本田家は初代当主まで現在の群馬県渋川に２代当主から埼玉県川越に居住し、寛永年間(1624～1644)に、府中の馬市との関係から谷保の地に移ってきたといわれています。

本田家鞍(拝領葵紋付馬具)

発行：国立市教育委員会　生涯学習課　社会教育・文化財担当（市役所３階 45 番窓口）
☎042-576-2111（内線：323）メール: sec_shogaigakushu@city.kunitachi.lg.jp